

久留米市地場企業景況調査レポート(平成21年7月～9月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

<DI値とは>

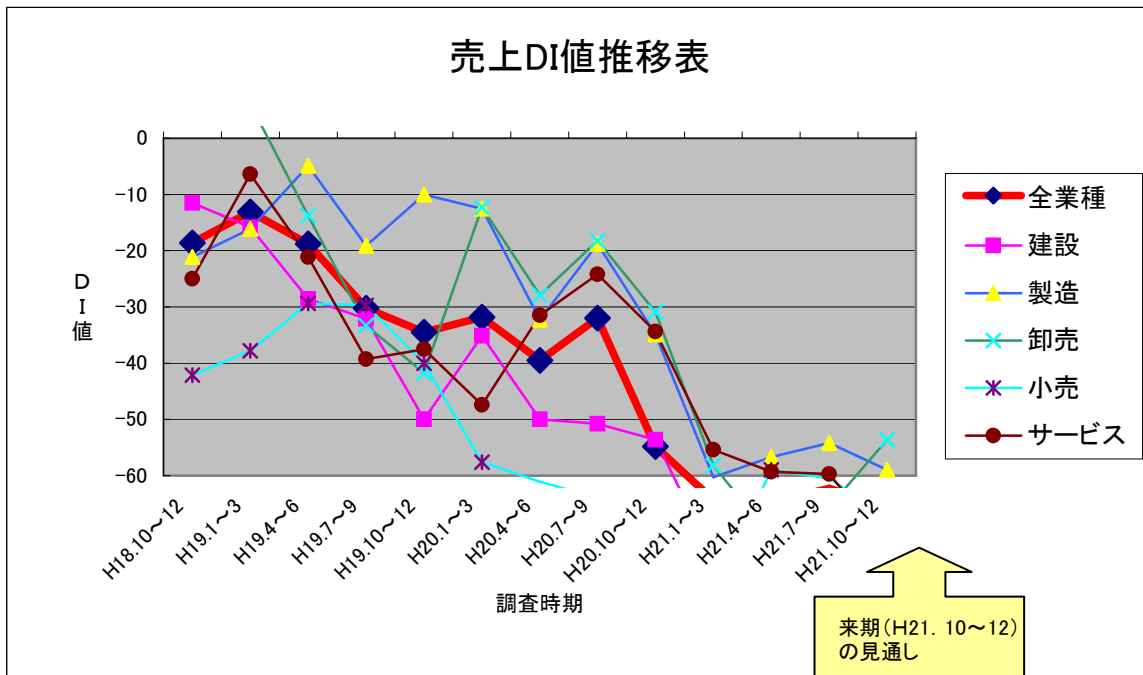
DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

<平成21年7月～9月期調査分回収結果>

業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	280	46.7%
建設業	120	55	45.8%
製造業	120	62	51.7%
卸売業	120	58	48.3%
小売業	120	43	35.8%
サービス業	120	62	51.7%

売上DI値推移表

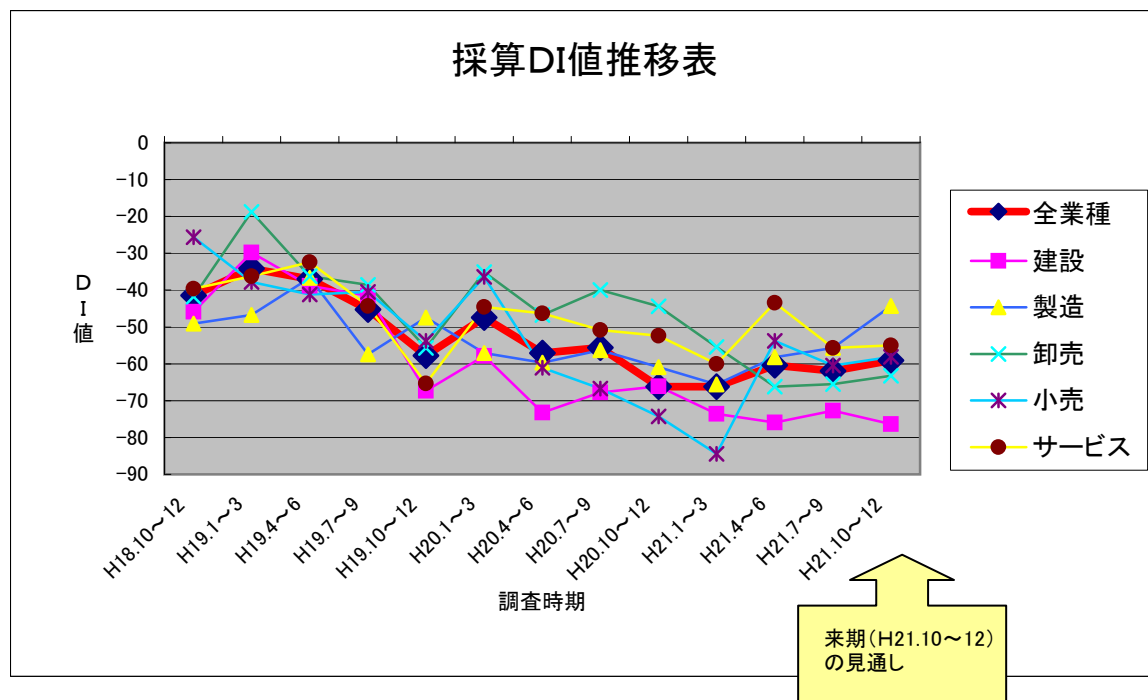


今期(H21. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「売上面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は28社(前期比4社増)、「減少した」と回答した企業は200社(前期比9社減)、「横ばいである」と答えた企業は48社(前期比5社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに縮小して▲62. 3となり、前期比で2. 4P好転した。

業種別に見ると、建設業▲72. 2(前期比0. 3P悪化)、製造業▲54. 2(前期比2. 5P好転)、卸売業▲65. 5(前期比5. 5P好転)、小売業▲60. 5(前期比1. 5P悪化)、サービス業▲59. 7(前期比0. 4P悪化)となった。

来期(H21. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲65. 5と3. 2P悪化する見込み。

採算DI値推移表

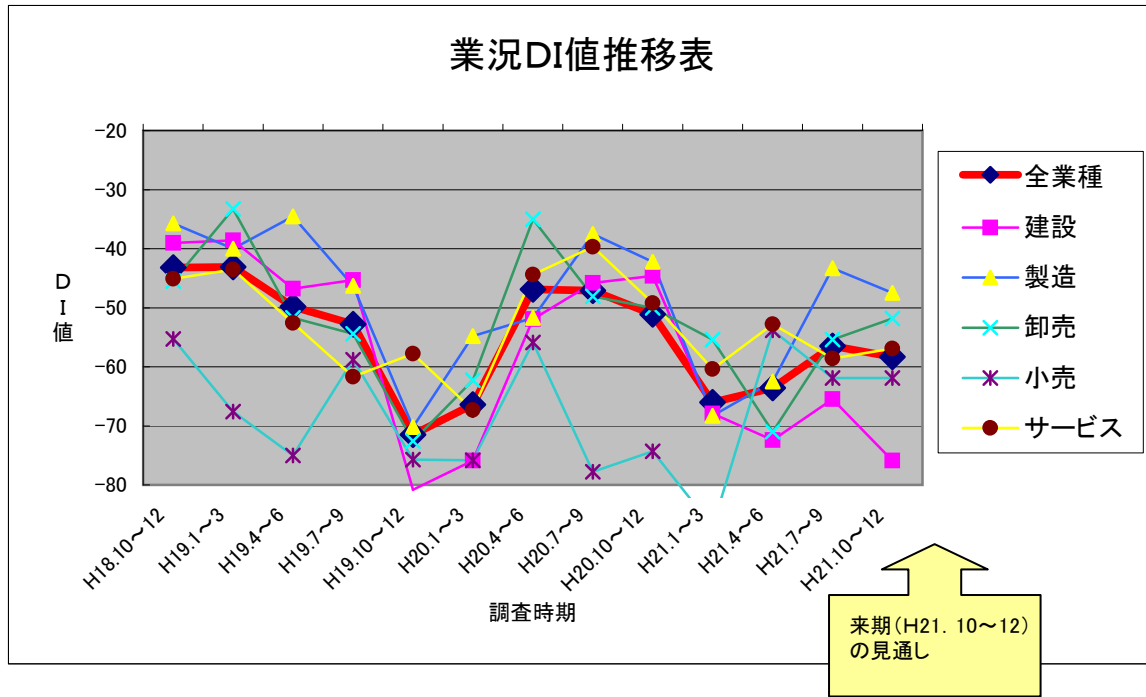


今期(H21. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「採算面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は18社(前期比同)、「悪化した」と回答した企業は190社(前期比同)、「横ばいである」と答えた企業は70社(前期比7社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに拡大して▲61. 9となり、前期比で1. 5P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲72. 7(前期比3. 2P好転)、製造業▲55. 7(前期比2. 5P好転)、卸売業▲65. 5(前期比0. 7P好転)、小売業▲60. 5(前期比6. 7P悪化)、サービス業▲55. 7(前期比12. 3P悪化)となった。

来期(H21. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲59. 1と、2. 8P好転する見込み。

業況DI値推移表

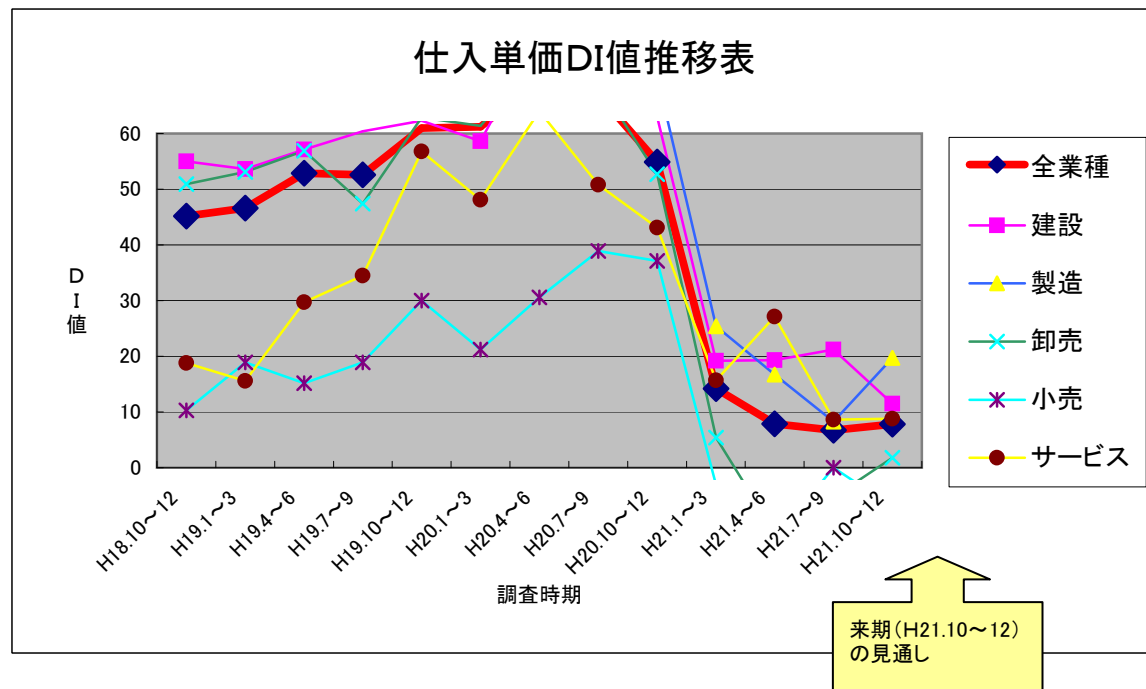


今期(H21. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は20社(前期比7社増)、「悪化した」と回答した企業は173社(前期比20社増)、「横ばいである」と答えた企業は78社(前期比1社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期連続で縮小して▲56.5となり、前期比で7.1P好転した。

業種別に見ると、建設業▲65.5(前期比6.9P好転)、製造業▲43.3(前期比19.2P好転)、卸売業▲55.4(前期比15.6P好転)、小売業▲61.9(前期比8.1P悪化)、サービス業▲58.6(前期比5.8P悪化)となった。

来期(H21. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲58.3と、1.8P悪化する見込み。

仕入単価DI値推移表

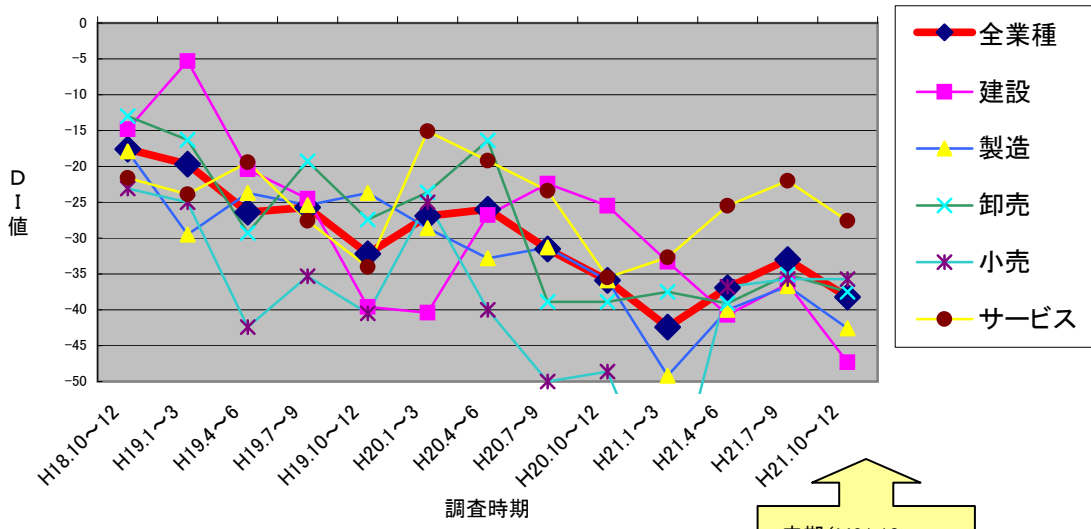


今期(H21. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は70社(前期比14社減)、「低下した」と回答した企業は52社(前期比10社減)、「横ばいである」と答えた企業は148社(前期比15社増)であった。DI値を見ると、5期連続で縮小して6.7となり、前期比で1.2P好転した。

業種別に見ると、建設業21.2(前期比1.9P悪化)、製造業8.3(前期比8.4P好転)、卸売業▲5.3(前期比6.3P悪化)、小売業0.0(前期比12.8P悪化)、サービス業8.6(前期比18.5P悪化)となった。

来期(H21. 10~12)の見通しでは全業種DI値は8.8と、2.1P悪化する見込み。

資金繰りDI値推移表



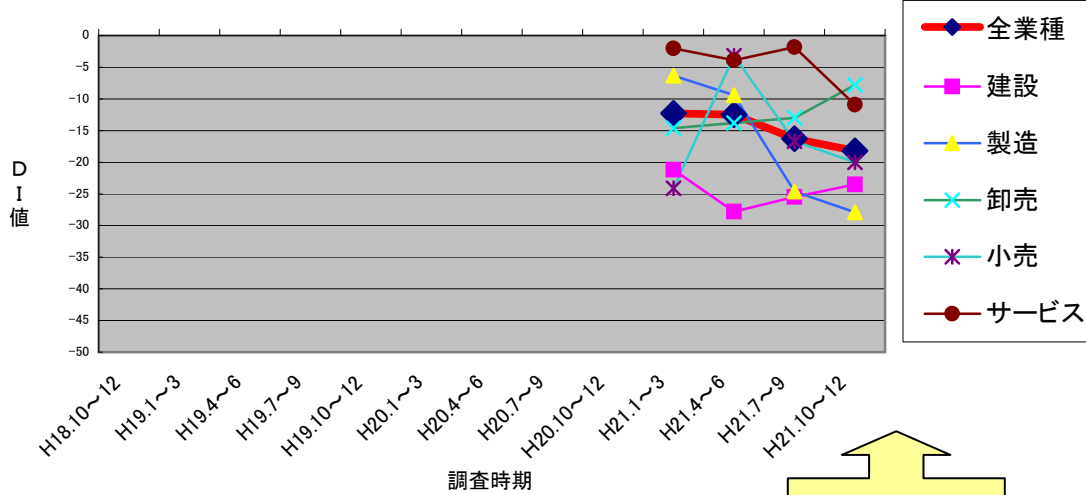
来期(H21.10~12)の見通し

今期(H21. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は15社(前期比6社増)、「悪化した」と回答した企業は105社(前期比8社減)、「横ばいである」と答えた企業は153社(前期比7社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で縮小して▲33.0となり、前期比で3.9P好転した。

業種別に見ると、建設業▲36.4(前期比4.3P好転)、製造業▲36.7(前期比3.3P好転)、卸売業▲35.1(前期比4P好転)、小売業▲35.7(前期比1.1P好転)、サービス業▲22.0(前期比3.5P好転)となった。

来期(H21. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲27.6と、5.4P好転する見込み。

従業員数DI値推移表



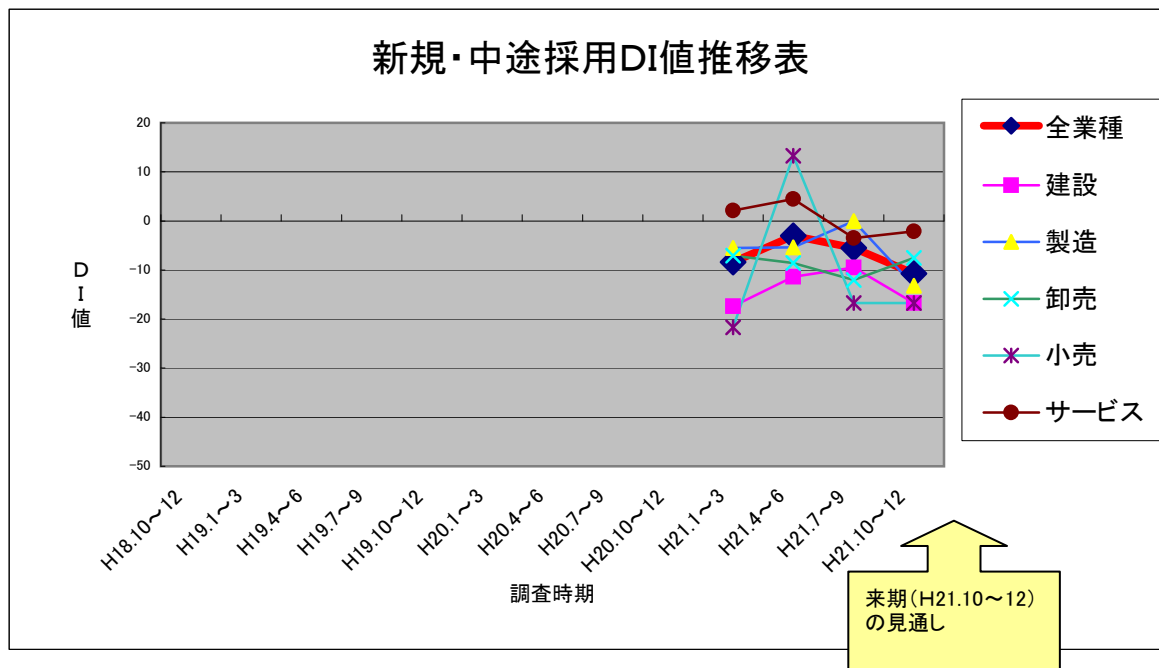
来期(H21.10~12)の見通し

今期(H21. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は21社、「減少した」と回答した企業は63社、「横ばいである」と答えた企業は174社であった。DI値は▲16.3となった。

業種別に見ると、建設業▲25.5、製造業▲24.6、卸売業▲13.0、小売業▲16.7、サービス業▲1.8となった。

来期(H21. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲18.2となる見込み。業種別に見ると、建設業▲23.5、製造業▲27.9、卸売業▲7.8、小売業▲20.0、サービス業▲10.9となる見込み。

新規・中途採用DI値推移表

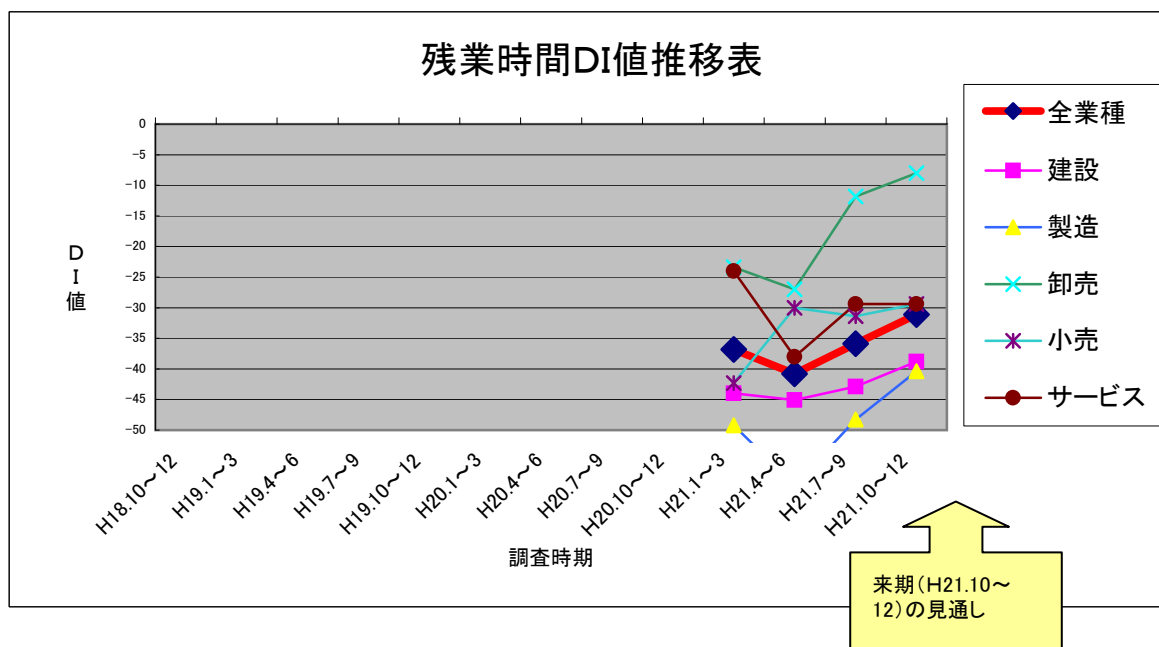


今期(H21. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は22社、「減少した」と回答した企業は34社、「横ばいである」と答えた企業は161社であった。DI値は、▲5. 5となった。

業種別に見ると、建設業▲9. 5、製造業0. 0、卸売業▲12. 0、小売業▲16. 7、サービス業▲3. 5となった。

来期(H21. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲10. 7となる見込み。業種別に見ると、建設業▲16. 7、製造業▲13. 2、卸売業▲7. 5、小売業▲16. 7、サービス業▲2. 1となる見込み。

残業時間DI値推移表

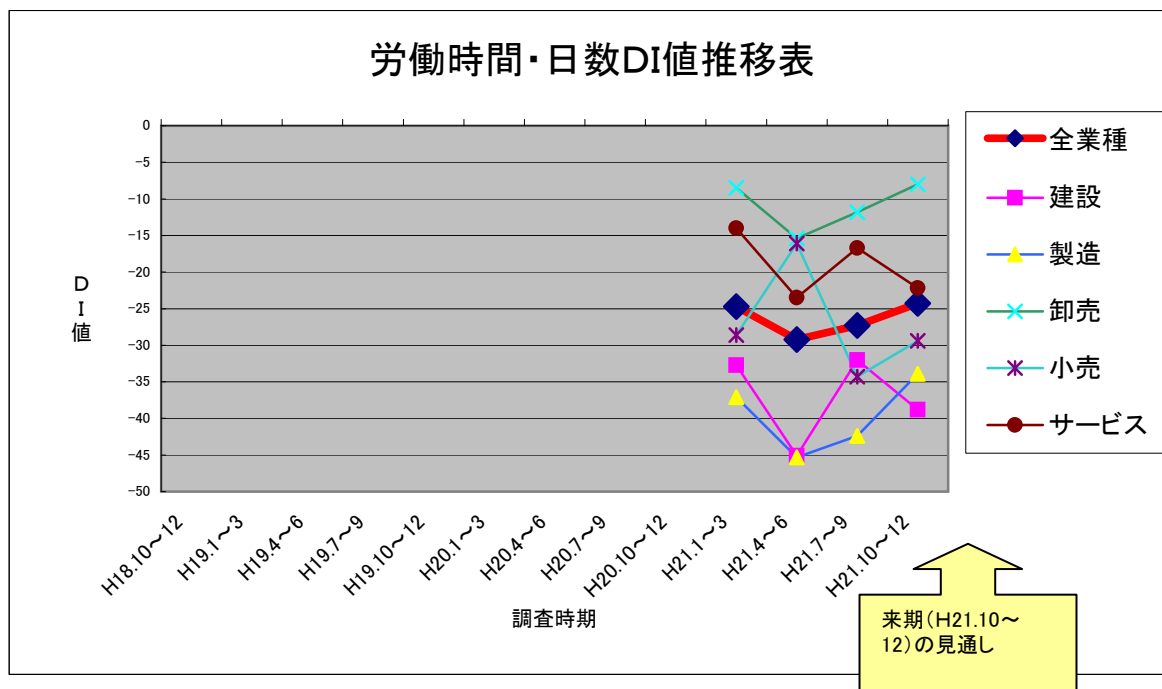


今期(H21. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は14社、「減少した」と回答した企業は102社、「横ばいである」と答えた企業は129社であった。DI値は▲35. 9となった。

業種別に見ると、建設業▲42. 9、製造業▲48. 3、卸売業▲25. 0、小売業▲31. 4、サービス業▲29. 4となった。

来期(H21. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲31. 1となる見込み。業種別に見ると、建設業▲38. 8、製造業▲40. 4、卸売業▲16. 0、小売業▲29. 4、サービス業▲29. 4となる見込み。

労働時間・日数DI値推移表

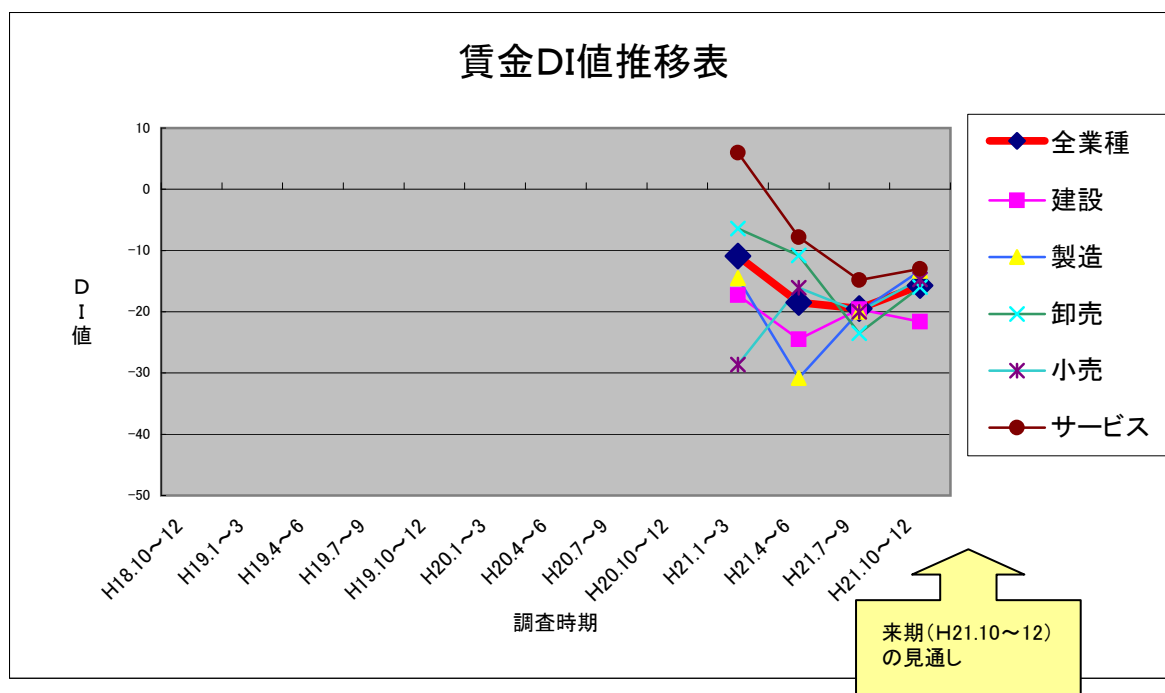


今期(H21. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は9社、「減少した」と回答した企業は77社、「横ばいである」と答えた企業は163社であった。DI値は▲27. 3となった。

業種別に見ると、建設業▲32. 0、製造業▲42. 4、卸売業▲11. 8、小売業▲34. 3、サービス業▲16. 7となった。

来期(H21. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲24. 3となる見込み。業種別に見ると、建設業▲28. 0、製造業▲33. 9、卸売業▲8. 0、小売業▲29. 4、サービス業▲22. 2となる見込み。

賃金DI値推移表

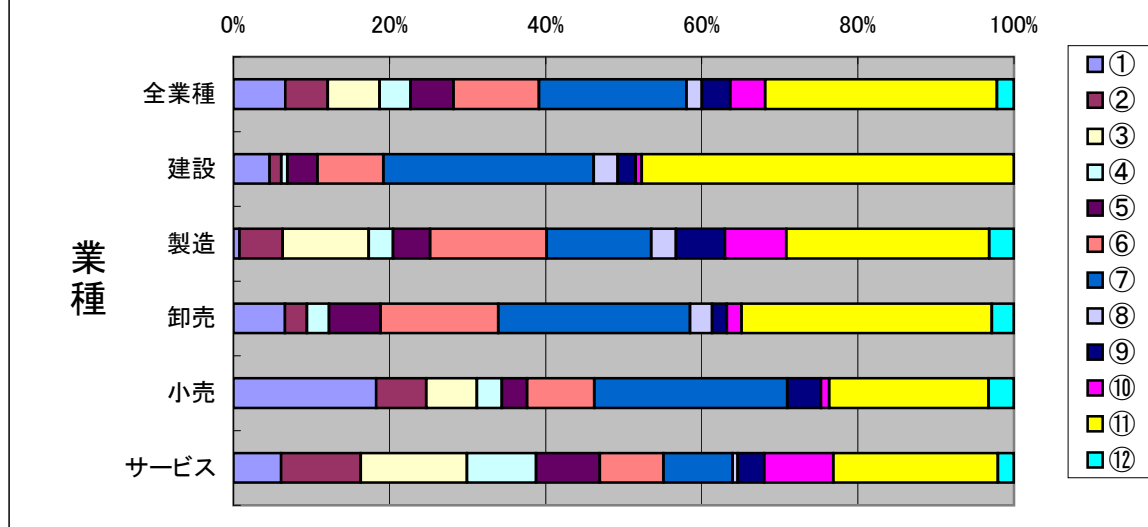


今期(H21. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は13社、「減少した」と回答した企業は62社、「横ばいである」と答えた企業は176社であった。DI値は▲19. 5となった。

業種別のDI値では、建設業▲19. 6、製造業▲20. 0、卸売業▲23. 5、小売業▲20. 0、サービス業▲14. 8となった。

来期(H21. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲15. 7となる見込み。業種別に見ると、建設業▲21. 6、製造業▲13. 3、卸売業▲16. 0、小売業▲14. 7、サービス業▲13. 0となる見込み。

経営上の問題点(複数回答可)



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H21. 7～9)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(29. 7%)」「販売価格の低下・上昇難(18. 9%)」を指摘する声が多く寄せられている。
 特に、「需要の停滞」は建設業(47. 7%)、製造業(26. 0%)、卸売業(32. 1%)、小売業(20. 4%)サービス業(21. 9%)と全業種で意見が集中した。

<事業所から寄せられた主なコメント>

- 「後継者がいないので今後の経営が不安である」(一般土木建築工事業)
- 「来期は土地・建設設備等の設備投資を計画している」(一般土木建築工事業)
- 「受注額、引き合いともに増加しているが取引条件が悪化している」(一般土木建築工事業)
- 「予定工事の延期・中止が多くなり採算が悪化している」(管工事業)
- 「請負単価の低下及び公共事業の削減」(塗装工事業)
- 「他品種へのニーズの変化が心配である」(精穀・製粉業)
- 「業界の悪化と将来の見通しが不透明のため今後が不安である」(一般産業用機械・装置製造業)
- 「雇用調整助成金の期間も限度があり先行き不安である」(一般産業用機械・装置製造業)
- 「今後も売上減少が予測され、販売エリアの拡大に努力が必要」(他に分類されない製造業)
- 「土木・建設業が悪化しておりかなり影響を受けている」(他に分類されない製造業)
- 「商品単価の変動が激しく、価格変更で苦慮している」(食品飲料卸売業)
- 「機械設備は新規購入よりも修理して使うことが多くなってきた」(その他の機械器具卸売業)
- 「販売単価を下げているのになかなか売れない」(農畜産物・水産物卸売業)
- 「売上額は減少しているが採算は黒字を保っている」(他に分類されない卸売業)
- 「今期は引き合いが活発になり売上額が増加している。来期はOA機器の購入を予定している」(農業機械資材卸売業)
- 「売上が大幅に減少し、銀行への借入返済を長期で計画していたので経営を圧迫している」(他に分類されない小売業)
- 「薬事法改正による新規参入者への対応」(医薬品・化粧品小売業)
- 「客数の増加に伴い売上額も増加している」(医薬品・化粧品小売業)
- 「今期は従業員を増やしたため売上も増加し採算も黒字になった」(医薬品・化粧品小売業)
- 「先行き不安によって設備投資が出来ない状況」(金物小売業)
- 「営業車の買い替えの際はエコカー補助金が助かった。仕入値は上がるが、販売価格に転嫁できない」(写真業)
- 「常連さんの来店頻度が下がり、客単価も下がってきている」(美容業)
- 「西鉄久留米駅周辺の経営環境がこれまでにないくらい厳しい状況になってきている」(駐車場業)
- 「今後、建物の老朽化が進むが設備投資は回収不能と思われる」(公衆浴場業)